平成26年(2014)
阿づまの光
8月号・Augusto

五代教主作 灰釉茶盌 銘「三ツ葉躑躅」
［高熊山土＋ミツバツツジ釉］

題字出口直日

通巻第545号
発行 大本東京本部
東京宣教センター
センター長 浅田秋彦
〒110-0008
東京都台東区池之端2-1-44
TEL 03-3821-3701
FAX 03-3821-5283
振替 00160-5-72625
URL http://oomoto-tokyo.com
Mail tokyohonbu@oomoto.or.jp

今月の聖言

かぎりなき蒼(あを)きみ空(そら)をながむれば
姿(すがた)みえねど神(かみ)の声(こえ)あり

出口王仁三郎聖師

「音楽がいちばん天国的だ」

総務管理課長 藤本(ふじもと) 光(ひかる)

毎年5月4日、天恩郷万祥殿で執り行われる「教主生誕祭」に引き続き、午後から「愛善歌奉納大会」が開催されます。今年は第20回を迎え、奉納者は過去最高の1800人を超えました。関東からは東京・神奈川主会が参加され、東日本大震災復興の特別プログラムでは、福島・茨城・栃木主会合同による、童謡「ふるさと」が歌われました。この3主会の皆さまには、9月の東光苑月次祭・合同慰霊祭の後に、同じ形で奉納していただくことになっています。

「愛善歌奉納大会」は、毎年私がとても楽しみにしている行事です。しかし、東京本部に赴任してここ2年は、あの感動をその場で味わえず少し淋しい思いをしています。

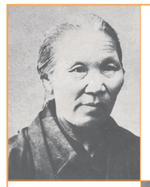
以前は所属の口丹波主会で出場し、全国の方々の奉納も聞かせていただいて、鳥肌が立つほど魂の喜びを感じていました。また、過去にお世話になった懐かしい方々が、それぞれのチームで出場されますと「前と変わらずお元気でよかった」と、久しぶりにお見かけする楽しみもありました。

各チームがそれぞれの持ち味を生かし、下腹からあふれ出る〝言霊(ことたま)〟を真剣に出されますので、4時間余りにも及ぶ大会でも、全く聴いていて飽きません。聴く全ての人に爽(さわ)やかさと希望、喜びを与えてくれます。それは言うまでもなく、聖師さまのお歌、神さまのお言葉そのままを〝言霊〟発声されるからです。老いも若きも愛善の〝言霊〟で歌い始めたとたん、すぐに和合の気に包まれ、万祥殿がまさに地上天国になります。

出口日出麿尊師さまの『生きがいの探求』に「もっとも容易に、じかに心霊の内陣にまで、迫るものは美である。音楽、美術、演芸はさかんにせねばならぬ。音楽がいちばん天国的だ」とあります。音楽は聴くより自分から歌う方がより楽しいと思います。愛善歌に親しむ機会をもっと増やしていきましょう。

大本神諭から読む世界展望

～激動の時代をいかに生きるか～



出口なお

王仁三郎の世界を語る

大本公開講座

講師　藤原直哉（経済アナリスト）

『大本神諭』との出会い

『大本神諭』は、いつ拝読しても胸にグッとくるんです。その時によって、受け止め方が違います。たまたま拝読した一節が、自分が抱えている問題の、まさに答えだと思わされることばかりです。

〝神の啓示〟と言われていますが、まさに理屈を越えた、不思議な力が体の中からわいてきます。

最初に『大本神諭』に出会ったのは1991年。当時、私はアメリカの金融機関に勤めていました。拝読して最初に感じたのは、その迫力です。言葉に表せない何かがズシンと胸に響きました。

「ビックリ箱が明くぞよ」。この一文を目にした時、「もう逃げ場がない。全てお見通しだな」と実感しました。

金融の世界はひっくり返ると、驚くことがたくさん起こります。金融は神の定める世界を変えてしまうような、世の中で最も恐ろしい仕組みです。

風邪をひくと悪寒がし、熱が出て、咳が出て、鼻水が出てと順番に症状に現れます。金融も同じで、株が暴落すると、順番に症状が出てきて、最後には恐慌となり、政府が潰れてしまいます。

神が示されたストーリー

『大本神諭』の一節に「一日一日に神力が強くなるから、何時までも同じように思うて居ると、俄かに驚動する事が出来るから、今の世界の人民と心が合うような事では、到底勤まらんぞよ。俗人の心と神の心とは、サッパリ反対であるよ」とあります。

世の中が変わる時には、今までどおりの生活で満足し、それが永遠に続くと思っていては神の意思には沿えず、ついていけなくなります。

また、世の変わり目の神が示されたストーリーは、なかなか理解できないため、現状維持を望み、変えたくない人もたくさん出てきます。

そうして、多くの人が心を病み、体を病み、人生とは何かが分からなくなっていきます。

こんな状況の中で誰が元気なのか？　やはり、目の前の損得勘定から離れた人が元気です。心の中から、わき出てくる元気を持った人です。権力やお金を持っている人が、必ずしも元気というわけではないのです。

間違いなく神の世界では、一つのシナリオが展開されていると思います。良いことも悪いことも超越した中で、万人がごく当たり前の生活ができる。それが天国の世界だと思うのです。

私は仕事をしながら、「これは神のシナリオどおりに動いている」と感じることがあります。一昔前までは、国際電話は高額な料金がかかりました。国内の電話にしても同様でした。

しかし今日、インターネットは、年間いくらか支払うだけで、つなぎ放題で使えます。一気に世界中に広がったわけですが、インターネットのおかげで、隠し事が隠しきれなくなり、世の中の風通しが良くなったように感じます。罪があぶり出しになったという意味において、これは神さまの道具ではないかと思います。

同時に、世界にはどんな人がいるのか。地球はどうなっているのか。といったさまざまな情報を、私たち一般人でも簡単に知ることができるようになりました。

世の中は良い方にも悪い方にも、どんどん変化をしています。

理論を越えた神の世界

私の父は戦争に行った世代で、戦時中の国家神道には、もう二度と騙されないぞと、断固として神を信じませんでした。神のおられる世界は一つもないという家で育ちましたので、私は、人間は生まれて全てが始まり、死んだら全てが終わると思っていました。いわゆる無神論者でした。

しかし、数学に穴があることに気がついて感覚が変わりました。1を3で割ると、0・333・・・となります。それに3を掛けても永遠に1にはなりません。理論では証明できない、この数学の穴こそ、〝この世〟と〝あの世〟との壁だと思いました。その壁は何かを求め、偉大な力、つまり神に接してみたくなったのです。

大本に入信し、お宮を拝むことから始めました。お宮を拝んでいると〝神さまがおられる〟と実感しました。目には見えませんが、屏風の向こうに誰かがいるという雰囲気に似ています。この感覚は、祝詞を奏げた後に感じました。

祝詞を奏げた後や、『大本神諭』を拝読した後には、大きな充足感があり、モヤモヤが晴れた感じがします。疲れている時は、疲れがとれたように清々しい気分です。これこそが〝神さまの力だなあ〟と思うのです。

言葉には「言霊」といって、魂が宿っていると言われます。〝あの世〟と交信する一番良い方法は、発声することだと、入信して初めてわかりました。「音」こそが〝あの世〟に届くのだと分かり、これはすごいと感じたのです。

真理を究め努力する

〝あの世〟が魂の故郷であるなら、人の誕生と死には、やはり意義があるということになります。

根源の神が、示されていることは、宇宙の真理であると信じて実践することです。〝あの世〟は存在する、神がおられるという想念で常に行動してみると、世の中の見え方が、まるっきり変わってきます。私は無神論者だったので、この違いを痛切に実感します。

『大本神諭』に「有難い斗りでは、神の御用は出来んぞよ」とあるのは「病気が治りました」、「お金が儲かりました」といった、現世利益、自己利益的な考え方ではなく、物事の中心は何かを自分で考えて、仕事をしなさいということかと思います。

神も助けるが、自分で努力しないと、本当の有り難みに気づかないのです。努力とは真理を悟り、その信念のもと、思ったままに行動することであると、私は理解しています。

また神道である大本には「見直し、聞き直し」という言葉があります。間違えたらやり直したらいいんです。一番悪いのは、何もしないことです。これは、神のご意志に合わない人です。

心の中を祓い清める

神道の素晴らしいところは、「罪を負っているから反省しろ」という考え方ではないことです。「人は元来、清らかな心の持ち主であるから、祓えばますます清まっていく」という発想から生まれています。

人の本来あるべき姿を説いているのが「祝詞」です。素直に神の声を聞けば、反省できるはずです。

私の体験では、「祝詞」を奏上し真剣に祈ることが一番だと思います。古来日本では、朝起きると、神仏に礼拝し、周囲を掃除して、祓い清めるという一つの型があります。

このような、日々規則正しい仕事をしている人は、変化に強いと言えます。礼拝や掃除は、無意味なことではないのです。宇宙に向けて、自分の中を清めているわけですから。

大本には『神言』という「祝詞」がありますが、ここには宇宙のはじまりから現在に至るまで、神がどのようして、罪や穢れを祓い清められているかが記されています。

どんな境遇にあっても、最終的な成功は、あの世に帰る時に「ああ良かったな」と、心の底から思えることです。そのためにも「祝詞」を奏げるのが一番だと思います。

それぞれ境遇や使命が違う。それでも万人に共通な何かがあるとすれば、太古の昔から、日本人が奏げてきた「祝詞」が一番強いはずなんです。〝あの世〟の存在を信じ、日々規則正しく生活し、仕事を続ける中で、良い「言霊」を発していくことが大切です。

私は「祝詞」を奏げていると、心の中が清まっていくのを感じます。それは一瞬で清まるのではなく、3ヶ月、6ヶ月、1年、5年…と毎日続けることで、徐々に清らかになっていくのを実感するのです。

良い物を作ること

『大本神諭』には「綾部の大本から、変生男子と変生女子との身魂が現われて、世界の人民の能う為ん大神業を致して、三千世界を根本から立直して助けるぞよ」とあります。

神は助けてくれています。あとは私たち人間の気持ちの問題です。気持ちをどこに向けるかです。明るく温かいものを目指して、天（神）と一体となる気持ちになることです。

そのためには、心に積もった〝ちり〟を取ることです。神の実在を信じて、初めて救いがあります。そこで人々は、これが神の経綸だと気がつくのです。神が世を動かされているということを実感するのです。

健康や仕事の問題で、苦労されている方も多いと思います。しかし、目に見えない世界があって、この現界が動いていることを悟れば、努力しようという気持ちが生まれます。

各自の〝善の身魂〟を中心に据えて行動することです。大切なことは、小さくてもいいから、良いものをつくることです。形や大きさに決してこだわらないことです。これが非常に重要なことです。最初に良いものを作るということは、とても難しいですが、これをきちんしていけば、周囲にも広がっていきます。良い物は必ず伝わります。

間違えに気づいたら直す

いろいろな困難が生まれてくるのは、気持ちに歪みがあるからです。気持ちが整ってくれれば、それは困難ではなくなり、明るい気持ちに変化していきます。

全ての人が、明るい気持ちで、温かく幸せになれるような世界を築くには、まず日本が本来の姿に立ちかえり、国内から良くしていかなければなりません。日本が良くなれば、世界が良くなる。現在はその節目にあると感じます。

間違いに気づいたら、直せばいいので、とにかく前に進むことです。未来はまだ完全に決まっていません。自分が努力しない限り、どうにもならないという気持ちを、いつも持って行動することが大切です。

『大本神諭』を拝読した時に、自分がどう感じるかがポイントです。その時に違和感や危機感を感じたら、自分を直せば良いわけです。気持ちが改まれば、良い方へ向かっていくはずです。

掲載文は、平成26年4月16日に航空会館（港区新橋）で開催した「大本公開講座」講演録の要旨です。

東京本部直属信徒研修会

東京本部直属信徒研修会は、6月29日午前10時から、大本東京本部で開催され、12人が参加した。

参加者は、講話「神まつり、みたま（祖霊）まつり」、「神業奉仕について」を受講したほか、基本宣伝歌、愛善歌の実習、茶席入席、お作品拝観などを行った。また、東光苑の祭典行事や、関東教区各機関の活動内容が紹介され、「総合質問会」ではさまざまな質問が寄せられた。

東光庵へ入席

参加者からは、「祖霊まつりの仕方と心の持ち方を学べてよかった」などの声が寄せられた。

東光苑月次祭

東光苑月次祭は7月13日、午前10時30分から、斎主・和田桂一祭務課長のもと執行され、354人が参拝した。

祭員は福島・栃木・山梨・東京・神奈川の各主会、少年祭員は神奈川主会の松倉遼（まつくらりょう）人くん、草野友哉（くさのともや）くん、伶人は宮咩会関東支部、大本神論拝読は中嶋浩山梨主会長、添釜は中村社中が担当した。

祭典後、大本東京本部を代表して猪子恒東京宣教センター次長があいさつを述べ、『新抄大本神論』に関わる都内の書店や、頒布活動の現状と経過を報告した。

続いて、「ブラジル宣教90年」と題して、猪子次長が月次祭講話を行った。本年は南米宣教90年目に当たる。講話では、大正13年に尾山照吉宣伝使一家が、聖師さまの「わしが守ってやるから支部をつくって膳立てしておけ」のお言葉に送られ、ブラジルの地に第一歩を踏み入れてから、現在に至るまでの南米宣教のご神徳談と活動の様子を紹介した。

祭典後、猪子次長からブラジル信徒4名の参拝者が紹介された

その後、奉納行事では千葉主会による、愛善歌「愛善世界」と全体合唱で童謡「ふるさと」が奉納された。

大本公開講座

第137回大本公開講座『出口なお・王仁三郎の世界を語る2014』は、7月16日午後7時から、港区新橋の航空会館で開催され、髙木日出喜大本楽天社事務局主幹が「芸術は宗教の母なり―宗教即生活即芸術―」と題して講演した。参加者は30人（内、一般17人）。

講座では、歴代教主・教主補さまのお作品を解説し、国内外で行われた作品展や歌祭の歴史と意義を述べた。最後に「人は美を感じ、芸術を通じて神の御心を悟る。宗教と芸術を生活の中で実践すると、豊かな人生を送ることができる」と結んだ。

参加者からは、「昨年、『出口王仁三郎とその一門の作品展』で受けた印象が次々とよみがえりました。（女性・一般）」等の声が寄せられた。

神さまと〝真に釣りあう〟ために
東光苑秋季祭式講習会

日　時　9月27日（土）午前9時より受付
～28日（日）午後5時ごろ閉講予定

会　場　大本東京本部

参加費　1人1,000円
※食事・宿泊代は別途実費を徴収します

内　容　初級クラス　基本動作から月次祭まで
中級クラス　大神鎮座祭・祖霊鎮祭・年祭・合祀祭など

持参品　笏、大本祭式の本、帯または紐（懐笏時に必要）、筆記用具、動きやすい服装、足袋（あれば履く方が動作が容易）、宿泊用品（宿泊の方）※笏は稽古用を貸与可能

申込み　受講クラス・食事・宿泊を明記の上、東京宣教センター祭務課「秋季祭式講習会」宛にお申込み下さい

定　員　40人

締　切　9月22日（月）必着

認定試験　初級・中級の大本祭式認定試験は、本年3月の春季祭式講習会をご受講された方が対象となります。前回（本年3月）の講習会を未受講の方でも、事前に数時間の追加講習を受講すれば、認定試験を受験できますので、所属機関の祭務部長か、当祭務課まで、ご相談ください。

東光苑祭典・行事予定

8月

1日（金）夕拝時
神集祭遥拝（初日・旧7月6日）

7日（木）午前10時30分執行
開教百二十二年 瑞生大祭遥拝祭

7日（木）夕拝時
神集祭遥拝（最終日・旧7月12日）

10日（日）午前10時30分執行
東光苑月次祭・市杵島姫命例祭

20日（水）午後7時～8時30分
大本公開講座（航空会館・港区新橋）
「出口なお・王仁三郎の世界を語る2014」
講題　出口王仁三郎が示した〝あの世〟に学ぶ
～霊界と魂の関係～
講師　成尾陽（メディア愛善宣教課長）

9月

8日（月）午後6時
東光苑秋をめでる夕べ

11日（木）午後7時
全国一斉世界平和祈願祭

14日（日）午前10時30分執行
東光苑月次祭・長寿感謝祭・交通安全祈願祭・秋季合同慰霊祭

17日（水）午後7時～8時30分
大本公開講座（航空会館・港区新橋）
「出口なお・王仁三郎の世界を語る2014」
講題　神と人～人は神の子、神の宮～
講師　鈴木林太郎（愛善宣教課主事）

27日（土）28日（日）
東光苑秋季祭式講習会